

年頭にあたって

日本銀行前橋支店長

肥後秀明



新年明けましておめでとうございます。旧年中は日本銀行前橋支店の業務に対し格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

昨年の世界経済を振り返りますと、波乱の1年だったと思います。各国において新型コロナウイルス感染症の影響が和らぎ経済が正常化に向いつつあった中で、2月24日にロシアによるウクライナ侵攻が始まり、天然ガスや貴金属、小麦などロシアやウクライナが主要産出国である商品の価格が急騰しました。一方、中国の上海では大規模かつ厳格なロックダウンが3月から6月にかけて実施されたため、幅広い業種で工場の稼働停止による部品の供給制約や物流の混乱がみられました。

こうした中、欧米では労働需給の逼迫やエネルギー価格の上昇等を背景にインフレ率が高まり、これを抑え込むべく中央銀行が金融引締め策に積極化する動きとなりました。金融市場では、欧米での金融引締めを映じて海外金利が上昇した一方で、為替市場では日本との金利差拡大に注目した円売りの動きが強まり、為替レートは年初の1ドル116円から一時的には1ドル150円台にまで大幅な円安

化が進みました。

原材料価格、エネルギー価格の世界的な上昇や為替相場の円安化は、わが国には輸入物価の大幅な上昇として波及し、企業の仕入価格や光熱費の上昇が続きました。消費者物価指数の前年比は年初の0.5%から年末には3%台半ばにまで上昇し、消費マインドを押し下げたと考えられます。もっとも、国内経済全体としてみれば、新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐもとで個人消費のペントアップ需要が顕現化したほか、生産面も自動車やデジタル関連需要の底堅さに支えられ、景気は緩やかながら回復を続けています。

本年については、海外経済が先進国を中心に減速することが見込まれていますが、わが国の自動車や資本財の生産・輸出は、供給制約の影響を受けながらも、高水準の受注残に支えられて増加基調を辿るとみられます。また、昨年半ば以降の入国制限の緩和を受けて、観光・宿泊業でのインバウンド需要も増加していくと予想されます。企業収益は、原材料高・エネルギー高による下押し圧力はあるものの、為替円安の影響もあって高水準を維持することが予想されています。こうした状況に加えて、緩和的な金融環境による下支えも

あり、設備投資は増加傾向が明確になっていくと考えられるほか、雇用者所得の増加も予想されます。本年が所得から支出への前向きの循環メカニズムが徐々に強まっていく一年になることを期待しています。

もつとも、リスク要因が無いわけではありません。まず第1に、海外の経済・物価情勢と国際金融資本市場の動向です。世界的にインフレ圧力が続くもとで、国際金融資本市場では欧米諸国におけるインフレの抑制と経済成長の維持が両立できるかが懸念されており、不安定な動きが続いています。本年も資産価格の調整や為替市場の変動が大きくなる可能性があるほか、新興国からの資本流出が生じた場合には、グローバルな金融環境が一段とタイト化するリスクがあります。

第2に、ウクライナ情勢の展開と、そのもとの資源価格・穀物価格の動向です。ロシアによるウクライナ侵攻が始まってから1年近く経過しましたが、その終焉はまだ見通せていない状況です。特に、エネルギー資源の多くをロシアに依存してきたユーロ圏については、今後もエネルギーの供給制約が経済活動を下押しする懸念があります。また、わが国を含めた他の諸国についても、ウクライナ情勢の展開次第では、再び資源価格・穀物価格が大幅に上昇し、その影響を受ける可能性があります。

第3に、内外における新型コロナウイルス感染症が企業の輸出・生産活動や個人消費に及ぼす影響です。中国のゼロコロナ政策は昨年末に大幅に緩和されましたが、感染者数が増加すれば、再びロックダウンが行われて日本企業の生産拠点の活動停滞や物流の混乱が生じる懸念は残っています。また、日本においても今後の感染症の動向次第では、ペントアップ需要による個人消費の押し上げが弱まる可能性もあります。

このほか、金融面では、新型コロナウイルス感染症への対応として2020年に始まったゼロゼロ融資の多くで返済据置期間が終了し、借入企業の資金繰り面では返済負担が増加しています。こうした状況の中で、企業倒産が増加する懸念もあります。

本年の群馬県経済は、こうした内外のリスクに晒される厳しい一年になると予想しています。決して楽観できる状況ではありません。もつとも、企業経営に影響を与えるリスクをしっかりと認識し、これに備えることでピンチをチャンスに変えることもできると信じています。本年4月には、広島でのG7サミットにあわせて、高崎市でデジタル・技術相会合が開催される予定です。観光業・宿泊業にとっては、群馬の観光資源を世界にアピールし、インバウンド需要を一層拡大する絶好の機会が訪れます。また、「最先端のデジタル県を目指す」群馬県を内外に示すことで、グローバルなIT企業との新しい繋がりが増えることも期待されます。群馬県の災害リスクの低さに着目した本社機能や拠点施設の移転・進出の動きが更に活発化するかもしれません。このほかにも脱炭素関連や人手不足に対応した省力化投資の増加、自動車のEV化への動きなど、時代の大きな変化に伴って、チャンスも巡ってくると予想しています。

これまでも、オイルショック、バブル崩壊、リーマンショックなど様々な出来事が経済活動に大きな影響を与えてきましたが、県民の皆さんの知恵と勇気で乗り越えて更に発展させてきた歴史があります。郷土愛が強く、人的ネットワークが密な群馬の県民性は、経済活動においても大きな利点と確信しています。

本年も、群馬県経済が様々なリスクを乗り越えて一層飛躍する年になることを祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。